RITZ PARIS

リッツ パリ www.jhrca.com/worldhotel?cat42

世界にはまだまだ日本人が訪れていないホテルがある。このコーナーではホテリエが知っておくべき「世界のリーディングホテル」を紹介する。

これまで多くのホテル紹介本が出版されてきたが、そのほとんどが現地のホテルと事前に取材の連絡を取り合い、プロのカメラマンや通訳、そのほか大勢を連れ立っての大名取材であり、宿泊は省略といったことも多々であった。本連載では、著者自身が長年にわたる個人旅行中に自分の目で感じ取り、コメントを書き込み、自分のカメラで思いのままを撮ってきた写真を掲載する。

私のファーストアルバム「World's Leading Hotels」はお陰様で好評を頂いておりますが、写真集第２弾「World's Prestige Hotels 世界の名門ホテル」を去年６月に発刊いたしました。

独自に取材した世界各地の最高峰ホテルを華麗な写真と共に解説しております。ファーストアルバムに引き続きご愛読して頂ければ幸甚に存じます。

筆者 小原 康裕

ホテルジャーナリスト
慶応義塾大学法学部法律学科卒。74 年 Munich Re 入社。85 年築地原健㈱代表取締役。
2001 年投資顧問会社原健設立、代表取締役 CEO。
JHRCA、日本ホテルレストランコンサルタント協会理事。
www.jhrca.com/worldhotel
現在、筆者のホームページで「世界のリーディングホテル」を連載中。
多くの美しい写真と興味深いコメントで、世界中のホテルとそれら関連都市を紹介。

ヴァンドーム広場に佇む Ritz Paris

RITZ PARIS リッツ パリ

2011 年 10 月 18 日、突然リッツ パリ休業のニュースが世界に発信されホテル関係者を驚かせた。翌 12 年夏より 2 年 3 カ月という異例の完全休業で、“ 前例のない改装 ” が理由だった。同年 5 月に発表された 5 ツ星を超える “ 新たな格付け ”「PALACE」の認定からリッツが漏れたことに起因する措置であった。（本誌 2012 年 3 月 9 日号、及び 23 日号の Vol.19、Vol.20 参照）。これまでパリには “ 暗黙の了解 ” という形で 7 軒の「PALACE」が存在していた。リッツ、ムーリス、クリヨン、ジョルジュサンク、プラザ・アテネ、ブリストル、そしてフーケッツ・バリエールの 7 名門ホテルである。そのなかでも筆頭格を自認するリッツが、フランス観光開発機構及び観光庁の審査認定から外されたことは、オーナーであるモハメド・アルファイド氏にとって耐えがたい屈辱であったと推測される。

去年 2016 年 6 月、新生リッツ パリはヴァンドーム広場にその栄光の扉を再び開いた。大改修を開始してから実に 4 年の歳月が経過していた。新生リッツ パリは建物外壁も綺麗に修復され、隣接するフランス司法省の黒ずんだ外壁との対比が象徴的である。筆者にアサインされた部屋はリッツを代表する「Coco Chanel Suite」で、シャネルの写真や化粧机、シノワズリーの屏風などフェミニンな空気が流れるスイートだ。ベージュを基本と室内は気品に満ち、窓からはヴァンドーム広場の壮麗な佇まいを望む。ここはシャネルの美意識が息づく特別な “ 家 ” とも言える。

新生リッツ パリで大きく変わったのは、「Ritz Club Paris」内に新設された「CHANEL au Ritz Paris」だ。シャネルとリッツの深い信頼関係により、ホテル内に誕生した世界初の美の殿堂である。エレガントなトリートメントが話題になり早くもセレブリティの注目を集めている。中庭テラスも大きく変更され、ニコラ・サル氏が率いるメインダイニング「L'Espadon」と人気のバー「Bar Vendôme」にそれぞれ開閉が出来るドーム型天井のテラス席を設けた。さらに、リッツの顔でもある麗しき中央回廊に「Salon Proust」が新設された。大作 “ 失われた時を求めて ” のマルセル・プルーストに捧げたサロン・ド・テである。

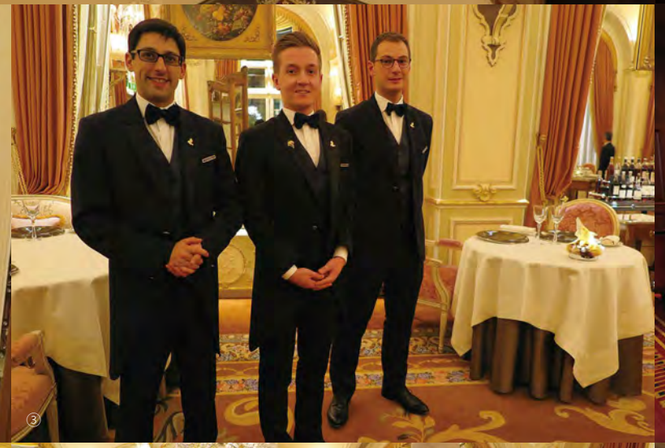
今回の改装で特筆すべきは、創業時からの歴史的遺産に敬意を払い繊細な作業が遂行された。家具や調度品は一切売りに出さず、情熱あふれる最高の職人たちにより修復がなされたことである。“ 世界の王族が邸宅に求める洗練と快適さを提供するホテル ”。セザール・リッツが開業時に掲げたビジョンだが、1898 年に創業して以来、王侯貴族や世界の著名人に愛されてきたリッツ パリ。これらのレガシーを大切に継承し、次世代に夢を届けるホテルとして華麗なる復活を成し遂げた。

① 他のホテルでは見られない伝統の黒い鉄扉と新調された真紅のカーペットが映える正面エントランス。中央のエンブレムも磨き上げられた
②リッツの顔でもある中央回廊。気品あるロイヤルブルーのカーペットが壮麗な空間を表現している
③華麗なる街路灯が燈る夜間の正面エントランス
④重厚なレセプションデスク
⑤ゲストリレーション担当の P. Paoletti 氏の出迎えを受ける。背後に “CEZAR RITZ 1850-1918” と記された記念プレートが掲げられている

RITZ PARIS リッツ パリ

① Ritz Paris を代表する「Coco Chanel Suite」のベッドルーム。
ベージュを基本とした室内は気品に満ち溢れている。
ここはシャネルの美意識が息づく特別な“家”とも言える
②化粧机やシノワズリーの屏風などフェミニンな空気が流れるスイートルーム
③ GM からの挨拶レターとウェルカムアメニティー
④窓からはヴァンドーム広場の壮麗な佇まいと中央にオベリスクを望む
⑤「Coco Chanel Suite」室内には、時代物の置時計やシャネルの思い出の写真、
書籍が置かれている
⑥新設された「CHANEL au Ritz Paris」のレセプションデスク
⑦「Ritz Club Paris」のトレーニングスタッフたち
⑧「Ritz Club Paris」のショーケース。airweave の文字も見える
⑨ゴージャスの極みを提供するスイミングプール

RITZ PARIS リッツパリ



① ヘッドシェフのニコラ・サル氏が率いるメインダイニング「L'Espadon」の絢爛豪華な店内
②エグゼクティブ・スーシェフの C. Guibert 氏の挨拶を受ける
③礼服姿のレストランスタッフたちがゲストを迎える
④きびきびとしたレストランスタッフの動きに好感が持てる。右手はレストランマネージャーの P. Cousseau 氏
⑤焼き上がったばかりのパンを提供するデモンストレーション
⑥中庭テラスは大きく変更され、メインダイニング「L'Espadon」と人気のバー「Bar Vendôme」にそれぞれ開閉ができるドーム型天井のテラス席を設けた
⑦「Bar Vendôme」の落ち着いたテーブル席
⑧大作 " 失われた時を求めて " のマルセル・プルーストに捧げた「Salon Proust」
⑨大書棚が取り囲む圧巻の空間が印象的なサロン・ド・テである